

## 『今後も安全に練習できることを願って』

### 1 アイスクホッケー再開と新型コロナウイルス感染第2波

北海道ローカルルールフェーズ4が7月12日に終了しました。慎重なステップを踏み、フェーズ5に入ると判断し、北海道各地で練習試合再開、コンタクトプレー再開という情報が寄せられています。

一方、日本中、特に関東圏での新規感染者数、感染経路不明感染者数も増えて、現在の感染状況を新型コロナウイルス感染第2波の入り口と捕らえる見方もあり、関東圏の大学では合宿、練習試合禁止、部活動自粛の動きもあります。

再度、北海道アイスクホッケー活動を止めないために、各リンク施設やチーム単位での感染予防対策を徹底し、個人も新しい生活様式の基本：(1)身体距離の確保、(2)マスク着用、(3)手洗いを守ることを徹底し、3つの密(密閉、密集、密接)な場所、クラスター対策をとっていない場所を避けてください。

### 2. 道内外の移動に伴うリスク回避について

コロナウイルス流行地から地方への感染拡散のリスクが専門家から指摘されており、このことはアイスクホッケーに関しましても例外ではありません。特にお盆や夏季の帰省などに伴い、練習、試合において、ビジターや招待選手を受け入れる場合には、十分配慮し、道外からの選手が感染リスクを有していないかを検討してください。(PCR検査を施行できない場合、感染リスクを減少させるためには移動後2週間の観察期間が必要と考えられます。)

### 3 新型コロナウイルス罹患者への配慮

皆様は、すでに感染予防対策を理解し、生活の中で実践していると思います。しかし危険を避ける行動をとっていても感染する危険性は常にあります。感染者や家族に対する偏見や誤解に基づく差別や誹謗中傷がSNS等で報告されています。同じ感染予防対策を講じている全員に感染の危険性があります。相手の身になって配慮ある行動をお願いいたします。また、コロナウイルス感染後にスポーツ再開する場合、心筋炎など心肺機能後遺症が残る危険性があります。医療機関で許可を得てからスポーツを再開してください。

令和2年7月21日

(一財)札幌アイスクホッケー連盟  
医科学委員会  
委員長 鈴木 孝治